

平塚柔道物語 68

濱名淳教師の最後のことば

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

濱名淳教師の話は、なおも続いた。卒業生がこれから生きて行く上での人間関係を結ぶ極意を提案したのである。きっと濱名教師の人生の貴重な体験が裏付けになっているのであろう。卒業生によりよい人生を過ごさせたいという思いやりが、これでもかこれでもかと、せまってくる感じがした。濱名教師の話は次のようである。

「ただ一つ心配なのは、理想に燃え、純粹培養されてきたあなた達が、これから、たくさんの嫌な経験をするだろうということです。それが世の中だと言ってしまえばそれまでなのですが、きっと恐らく、間違いなく、これから多くの理不尽と思える事態（道理も情理もわきまえない行動）が、あなたを襲うでしょう。その理不尽を与えてくる相手はいつも敵だとは限りません。むしろ味方と信じている相手からの言動に、味方と信じていたからこそ理不尽を感じることもの方が多いかもしれません。そんな時は、先ず、その理不尽を与えてくる相手を理解しようとしてみて下さい。信頼の最初の一步は『理解』です。一見、理不尽と感ずることがあっても、その根底にある愛情が見つけれられるなら、きっと相手を信頼できるでしょう。だから、先ず、自分の方から、いつも相手を理解するように努めましょう。無意味な敵意や思い込みは、決して信頼を生みません。信頼は、いつか感謝に変わります。感謝はあなたを笑顔にし、その本物の笑顔は、あなたをあなたの望む場所に連れて行ってくれるはずです。横須賀学院流はここで終わりじゃありません。それぞれに与えられた場所で『天下布帛』をきつと成し遂げて下さい。私もいつまでもあなたたちの同じ方向、つまり、前を見て頑張っていくと思えます。敵をも理解するように努めよと言いましたが、いくら理解しようとしてもできないような、どうしようもない理不尽に見舞われたなら、いつでも帰って来て下さい。私たちは家族なので

から・・・卒業おめでとう。ありきたりの言い方ですが『頑張って下さい』。そして、これからもよろしく！！ 卒業おめでとう。」

ここで、濱名教師の話が終わっている。「どうしようもない理不尽に見舞われたなら、いつでも帰って来て下さい。私たちは家族なのでから」という言葉は、卒業生一人一人にとって、濱名教師に対する親しみと共に、心の支えになったのではあるまいか。平塚柔道協会の児玉七海も感動していた一人である。現在、彼女は、鎌倉女子大学の一年生であるが、先日、久しぶりに平塚の柔道場に顔を出した。私が濱名教師の話をする、彼女はつい最近も難題にぶち当たり、濱名先生に相談したと言う。教師の適切なアドバイスにより、問題が解決し、心の不安も解消したと語った。濱名教師の家族主義は多くの卒業生にとって心の支えになっていることは間違いない。

最近、県の高校柔道大会があり、濱名教師の生徒に対する試合指導の様子をそばで聞かせてもらった。彼の言葉からは温かさを感じた。生徒を心から信頼している。可愛くてしょうがないといった愛情のあふれた励ましであった。心はうそをつかない。心から言葉が出るのだ。『文は人なり』と、ある作家が言っていたが、『言葉も人なり』である。

平塚柔道協会の青木愛・仁藤愛・児玉七海が大変お世話になった濱名教師の言葉や行動を通して、現代の世相の中で、いま必要な多くのことを、私は学ぶことができた。



信頼の師弟関係

濱名教師と横須賀学院高校の柔道部員